

図鑑やマップで集落の「宝」発信

乙事学 次世代つなげる機運高める フォーラム



自転車で舞台を積んだ昔ながらのスタイルで、乙事区にまつわる紙芝居を披露する築館千枝さん。子どもを含め幅広い世代が見入った

富士見町乙事区は12日、今年度進めた乙事学プロジェクトの成果を発表するフォーラムを区公民館で開いた。文献収集や聞き取り・現地調査を経て作成した「乙事図鑑」や史跡マップを発表し、昭和初期の実話に基づいて作った紙芝居を、自転車で舞台を積んだ昔ながらのスタイルで初上演。歴史ある集落の「宝」を発信し、維持・活用や次世代につなげる機運を高めた。区内外の約80人が聴講した。

(鮎沢健吾)

マップには区内に点在するに造られたオオカミの落とし文化財と位置を収録する。区穴「狼落し」などの「区宝」発祥の地とも言われる「綿の芝湧水」や、山岳信仰の史跡群、諏訪の地で唯一行われていた「乙事の馬市」、江戸時代

進委は「戦国時代、乙事は有数の要所だった」「山岳信仰が集落の団結力につながった」

と力説。マップは新たに作成した区ホームページからも入手でき、幅広い世代に史跡巡りを呼び掛けた。

紙芝居はメンバーの築館千枝さんが担当。自転車ですっきりと登場し、本郷小に通う子たちのために村を挙げて10年がかりで造った「中丸沢の学校道」を題材にしたおはなしを上演した。方言や実際の道づくりの写真を織り交ぜながら自作の絵をめくり、集落の絆や温かさが詰まった物語を情感たっぷりに届けた。

御柱祭を契機にしたプロジェクトで、県の地域発元気づくり支援金を活用して一連の活動を進めた。フォーラムでは水をめぐる歴史や、木造建築の伝統技術「貫構法」と乙事諏訪社御柱祭での活用についての話もあった。五味俊区長は「住みたい、住み続けたい乙事区を感じていただけたら」と望んでいた。